

総務委員会視察成果報告書

令和5年10月11日

犬山市議会議長 柴田 浩行 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和5年10月 2日(月) ~ 令和5年10月 3日(火) (1泊 2日)
(2) 視 察 地	岡山県総社市 (総社市役所)
(3) 視察の種類	(常任)・特別 委員会 (総務委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	<p>人権・まちづくり課より、多文化共生施策の概要、総社市外国人リーダー養成研修について、説明をいただいた。多文化共生施策としては、外国人集住都市会議への参加、AMDAと連携しての医療・防災支援の連携、三菱自動車をはじめとする地元企業との情報共有など基礎自治体が主体的に施策に取り組んでいる姿を見て取ることができた。その延長線上にコミュニティ交流事業があり、外国人防災教室、外国人防災リーダー養成研修といった取り組みがあると解する。</p> <p>外国人防災リーダー養成研修としては、大規模災害に対する総社市の支援活動等の経緯が大変重要であり、精力的に取り組む中で外国人市民の信頼を得て外国人コミュニティメンバーの「支援する側になりたい」、「災害時に役に立ちたい」というニーズをつかみ取り具現化に成功したと考える。</p> <p>質疑を通じて、市内在住の外国人全世帯への配布や、それに関わる外国人窓口 (通訳) の雇用形態について参考になる部分が多くあった。また、総社市の今後の取り組みとして企業との情報共有や様々な国籍の方への対応、外国人防災リーダーのネットワーク拡大をしていきたいこと、国へは全国に広がる政策を期待していることなど、考えを伺うことができた。</p>



(5) 犬山市に 対する提言	総社市の視察から、まず基礎自治体として主体性をもった施策を期
	待したい。犬山市には犬山国際交流協会やNPO法人シェイクハンズと
	いった国際交流や多文化共生の発展に資する組織があるが、連携強
	化のためにも犬山市が更に主体性を持って取り組み、他の自治体と
	のネットワーク拡大にも取り組んでいただきたい。また総社市では、
	長年の取り組みで外国人全世帯を把握して、外国人広報誌の全戸配
	布を実現していた。外国人窓口（通訳）が戸別訪問するなど負担が大
	きい取り組みであったことから、手放しで賞賛できないが、市内在住
	外国人の状況把握のためにも重要であるとする。質疑を通じて、外
	国人と接点を持つための最後の手段は「口コミ」であることを理解
した。市内在住の外国人に関わる問題解決、円滑な行政サービスを	
考えた際、外国人窓口（通訳）の拡充、正規雇用化を真摯に検討す	
るべきと考える。	

総務委員会視察成果報告書

令和5年10月11日

犬山市議会議長 柴田 浩行 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和5年10月 2日(月) ~ 令和5年10月 3日(火) (1泊 2日)
(2) 視 察 地	兵庫県豊岡市 (NPO法人にほんご豊岡あいうえお・豊岡市役所)
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (総務委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	<p>「NPO法人にほんご豊岡あいうえお」では、市内在住の外国人への日本語教室を中心に、多文化交流サロンなど居場所づくりの活動を説明いただき、実際の日本語教室を視察させていただいた。日本語教室からは多くの日本語能力試験合格者を輩出しており、市内在住外国人の生活水準、就労条件の向上に対し非常に貢献度が高いと感じた。いただいた資料からNPO法人シェイクハンズとの連携を垣間見ることができた。</p> <p>その後の豊岡市役所での視察では、多文化共生推進プラン2021-2025について、プラン策定までの取り組みや、プランの具体的な取り組み、プランにおける5年後目標値について説明をいただいた。コミュニケーション支援、生活支援、意識啓発と地域づくりといった明確な主要手段を掲げ、目標値を定めていることに好感が持てた。先の「NPO法人にほんご豊岡あいうえお」と合わせ日本語教育を年間2,000回行っていると説明を受けた。単なる労働者ではなく活躍して欲しいとの想いを感じ取ることができた。地域行事の選手やだんじりの担ぎ手として加わるようになったとも報告を受けた。NPO法人と行政の連携のもと、プランを立てて明確な目標に向かって取り組むことの重要性を理解することができた。</p>

(5) 犬山市に
対する提言

先の総社市同様、基礎自治体の主体性が重要であると考え。とりわけ豊岡市ではプラン（計画）を立てて、目標を明確にして取り組んでいたが、犬山市でもこれを取り入れ、プラン（計画）として取り組むことが重要であると提言する。また、すでにNPO法人では他の地域のNPO法人などと連携して取り組んでいる。行政としてもネットワークを強化して取り組んでいただきたい。また但馬地域では豊岡市で2カ所、地域全体で6カ所の日本語教室を有している。市内在住外国人の生活水準、就労条件向上のために本市においても日本語教室の取り組みを更に強化できるよう施策を講じられることを期待したい。最後に、やはり豊岡市でも外国人とのコミュニケーションの要は「ロコミ」であった。外国人窓口（通訳）の重要性から拡充・正規雇用化など検討していただきたい。合わせて、持続性の観点から、日本語学習支援ボランティア養成も、豊岡市の事例に学んで取り組まれない。